

課題名	農業参入企業定着への支援	振興局名	県北振興局
活動対象	松浦市御厨地区	実施期間	平成28年4月 ～平成29年3月
<p><b>【対象の概要】</b> 松浦市御厨地区（JR九州ファーム(株)、地のものファーム(株)）</p> <p><b>【課題設定の背景】</b> 1 平成26年11月に馬込地区へJR九州ファームの農業参入が決定し、馬込地区をモデルに農地中間管理機構事業を推進し担い手への集積を進めた。JR九州ファームは、H27に営農を開始しアスパラガス1.65haの新植とブロッコリー1.3haの作付けを行った。H28には残り1.65haのアスパラガスの新植とブロッコリーの作付けを計画しており、ハウス事業計画・排水対策などを策定中である。引き続きアスパラガスおよびブロッコリーの栽培管理技術支援が必要である。 2 27年度に地のものファーム（株）がバレイショ栽培で大石地区に参入し、規模拡大を計画している。地のものファーム（株）はH28春作バレイショを既に作付けしているが、西南暖地では収量が低いインカのめざめの栽培を計画しており、定着のために栽培技術等重点的な支援が必要である。 3 農業参入企業の定着により、地域の雇用創出が期待される。新規参入企業の定着のためには、地域の新規雇用就業者定着へのフォローアップが必要である。</p> <p><b>【活動目標】</b> 1 農地中間管理機構事業を活用し、農業参入企業への農地集積を図る。 2 (1)JR九州ファームに対しアスパラガスの親株養成及び施設・暗渠・深耕整備及び新植の支援を行い、事業計画達成と地域への定着・活性化を図る。 (2)地のものファーム（株）について、バレイショ栽培面積拡大を図り、企業参入モデルとして、地域への定着を図り、地域の活性化を目指す。</p> <p><b>【関係機関との連携】</b> 指導農家、松浦市、松浦市農業委員会、JAながさき西海、県北振興局が連携し支援した。</p> <p><b>【活動経過】</b> (1) 農地中間管理機構による農地流動化推進 推進チーム会を開催し、情報の共有並びに今年度の推進方針を検討し、今後の推進方法の確認を実施した。地のものファームについては、露地2haの経営安定を図ってから、面積拡大の意向であったが、2月時点では現状の施設栽培に重点を置くこととなり、当面は露地面積の拡大はしないこととなった。 (2) 農業参入企業へ定着支援 【JR九州ファーム】 ・各種補助事業を活用したAPハウス計1.65haの建設の計画・進捗管理等の支援を実施した。 ・平成27年度に本格的な営農を開始してきた中で、地元指導農家を核としながら、生産部会、関係機関、各種業者、期間契約社員等との関係性が深まり、地元へ順調に定着してきている。 ・JR九州ファームに対する指導とともに、指導農家に対しても現状や懸念事項の聞き取りを行うなど情報を共有し、フォローアップを行った。 ・栽培管理スケジュール作成と労力試算を行い今後の計画協議を地元指導農家および関係機関と連携して行った。 ・H28産では収穫開始時期の遅延（労力不足による親莖の更新遅れ）、病害虫（ヨトウムシ、褐斑病）の蔓延（初期防除薬剤の選択ミス、適期防除のための労力不足）による樹勢低下などにより、目標単収を大きく下回った。しかしその後の液肥施用と防除の実施等により10～11月は樹勢が回復した。 ・ブロッコリーについては、昨年度は実施されていた明渠の設置と高畦栽培が徹底されておらず、また、夏場（8月定植）の作型も関係機関と検討がなされないまま導入された。その結果、夏場の干ばつや秋の多雨の影響で活着がうまくいかずに植え直しが必要になった圃場や、湿害により生育が著しく悪い圃場が見受けられた。 【地のものファーム】 ・関係機関と連携し、指導農家の選定、経営内容の検討、作業スケジュールの作成・提示等の支援を行った。 ・地元指導農家士との顔合わせの機会をつくり、地元の篤農家に気軽に相談できる体制を作るよう働きかけを行った。 ・ばれいしょ及びミニトマト等の栽培品目の栽培管理指導と作業スケジュールの作成・協議等を行い、計画的で適切な栽培管理の実施を支援した。 ・社長により唐突に新たな品目の作付け指示があるなど、地元で実際に作業を行う職員に経営の決定権がない中で計画的な作業が難しい場面があった。 ウ 雇用就業者の定着支援 青年農業者組織活動への参画支援を通して関係機関・地元農業者とのネットワーク構築を支援した。</p>			

**【普及活動の成果】**

(1) 農地中間管理機構による農地流動化推進  
 地のものファームの面積が農地中間管理事業を活用し124a増加した。

(2) 農業参入企業へ定着支援  
 松浦市に参入・農業経営を開始した以下の2社（対目標100%）が定着した。

ア 企業への定着支援・栽培管理指導

【JR九州ファーム】10月末までにAPハウス計1.65haが完成→  
 11月中に新植完了

H28産単収量0.4t（目標単収1.5tの27%）

H28新植分(1.65ha)→親株の生育順調

H27新植分(1.65ha)→2/1保温開始（計画的な春芽準備の完了）

【地のものファーム】関係機関の支援体制の整備

地元の指導農家を2名確保（H28.10.～）

・秋ばれいしょ0.5ha：茎葉の生育および収穫順調。

・春ばれいしょ1.9haの定植完了（12～2月）

※品種構成グラウンドペチカ1.5ha、ながさぎ黄金0.3ha、デジマ0.1ha<ハレイシヨの栽培状況>

ウ 雇用就業者の定着支援

雇用就業者22名（対目標138%,JR九州ファーム19名、地のものファーム3名）が定着し

+

**【対象の声】**

・今年度着手したハウス1.65haが竣工し、アスパラガスの栽培面積が3.3haとなった。これも関係機関の支援の賜物であると感謝している。栽培においては、作業スケジュールの提示や労力試算等により、雇用を含め事前準備に役立っている。今後も継続した支援をお願いしたい（JR九州ファーム）。

・提供があった栽培暦や作業スケジュールを見て栽培準備や肥料設計を効率よくできたので良かった。しかし、前作が耕作放棄地であったり、土壌が重粘土の赤土で固くなったりしたので、対応がうまくできない場合もあった（地のものファーム）。

**【今後の課題】**

1 企業への定着支援・栽培管理指導

【JR九州ファーム】

・本年度で営農開始に必要な整備事業は終了したが、まだ経営が軌道に乗ってはいないため、今後も現状把握と情報共有に努め、必要に応じて情報提供や地元関係者との調整などの支援が必要である。

・昨年の労力不足による更新作業や防除の遅れの対策として、労力（期間契約社員の作業人数）確保を3/1～4/10まで重点的に行う予定である。また、アスパラガスの収穫作業等の労力として外国人（ミャンマー）4名の雇用を3月下旬から開始予定である。

・今後も引き続き栽培管理スケジュールや労力に関する情報提供・協議を行い計画的で適切な栽培管理につなげる。

・アスパラガスについては適期栽培管理により目標単収の達成を目指す。

・ブロッコリーは単収を確実に確保できると見込まれる栽培方式（排水対策、作型、追肥方法等）について関係機関や部会と事前協議を行った上で作付けを行う。

【地のものファーム】

・指導農家や関係者との良好な関係構築に向け、松浦市や農業委員会と連携しながら情報提供や調整を行う。

・主要品目であるばれいしょとミニトマトの品質および収量を確保するため、現地における栽培管理指導および栽培スケジュール協議等を重点的に実施する。

2 雇用就業者の定着支援

・青年農業者会員からの情報提供により、籾殻や米糠など必要な土壌改良資材の地元入手先の把握やスムーズな交渉につながっている。今後も青年農業者・指導農業者を中心に定着支援を継続する。

**【成果の活用及び普及活動上の留意点】**

1. 松浦市は企業の新規参入を進めており、今後の参入者への定着や雇用者の拡大に、この参入事例を活かすことができると考える。

発表・参考資料



<アスパラガスの栽培状況>



<ハレイシヨの栽培状況>